

明治二十五年 壬申（一八九二年） 閏年 花蹊五十三歳

〔明治二十五年当用日記〕（No.1）に記載された内容を収める。

明治二十五年以降は、あらかじめ印刷されている当用日記に書き込む形式となっている。これ以前の日記の形式を勘案しつつ、記述に必要なと思われる印刷項目（日付、干支、曜日、受方摘要、払方摘要、会計等）について、これを花蹊の記述と区別せずに、起こした。

書誌を記す。背標題、『明治／二十五年／当用日記』。明治二十四年十一月四日印刷、明治二十四年十一月五日出版。編輯兼発行者は明治二十六年に同じ。印刷、印刷局活版部。洋紙洋装。銀鼠色総クロス表紙、空押し模様、背金箔押し。縦十八・九cm×横十二・八cm（横は、表紙上左端より背左端の隆起尖端部分までを測定、以下同）。表紙に花蹊の手で「明治廿五年／日記／不言庵」と墨書。薄水色見返し。扉一丁、序および凡例一丁、日記本欄一〜三百七十九頁（毎月末に「〜月会計」の欄、最後に「明治廿五年総計」の欄あり）、附録目次一〜二頁、附録一〜百六十九頁。奥附一丁。

記述は、墨筆、朱筆また鉛筆の交じり書き。到来反物の記述には、反物数計算のためと思われる○印が朱筆で付けられている。この○印の位置を、反物名の後、数量の前に統一した。前半ほどは、「雨天。無客」「晴天。有客」等と、来客の有無のみが天候に続けて書かれているが、後半は、「有客」の後に具体的な来客名が記されるようになる。その場合、来客名の部分を天候から切り離し、「(来客)」と補って本文の後に廻した。

挿入紙一点あり。「明治廿五年略曆」。竪一七・九cm×横十・四cm。本年末尾に図版で収めた。

明治二十六年 癸巳（一八九三年） 花蹊五十四歳

〔明治二十六年当用日記〕（No.2）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『明治／二十六年／当用日記』。明治二十五年十一月五日印刷、明治二十五年十一月九日出版。編輯兼発行者、京橋区銀坐壺丁目九番地 金原喜一。印刷者、印刷局。洋紙洋装。銀鼠色総クロス表紙、空押し模様、背金箔押し。縦十八・九cm×横十二・七cm。表紙に花蹊の手で「明治廿六年／癸巳一月一日／不言庵日記」と朱筆書き。鴉色見返し。

扉一丁、序および凡例一丁、日記本欄一〜三百七十八頁（毎月末に「〜月会計」の欄、最後に「明治廿六年総計」の欄あり）、附録目次一〜二頁、附録一〜百六十九頁。奥附一丁。

記述は、墨筆、朱筆また鉛筆の交じり書き。昭和五十六年十一月、日記編纂事業のために行った写真撮影時に、一月二十七日、二十八日の一丁分が破り取られていることが発見された。従って、この二日分は本文が確認できない。到来反物の記述には、一月〜三月まで、朱筆で○印が付けられている。この○印の位置を、反物名の後、数量の前に統一した。前半年は、明治二十六年と同様、天候に続けて「有客」の後に具体的な来客名が書かれているが、それを天候部分から切り離し、「(来客)」と補って本文の後に廻した。後半年は、本文中に、「来

客者」また「来客」とした後、人名を記述する方式となる。

明治二十七年 甲午（二八九四年） 花蹊五十五歳

〔明治二十七年当用日記〕（No.3）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『明治／二十七年／当用日記』。明治二十六年十一月六日印刷、明治二十六年十一月八日発行。編輯兼発行者、京橋区銀坐壱丁目九番地 金原喜一。印刷者、印刷局。定価金三十拾五銭。洋紙洋装。鶯茶色総クロス表紙、空押し模様、背金箔押し。縦十九cm×横十二・九cm。桃色見返し。扉一丁、序および凡例二丁、日記本欄一〜三百七十八頁（毎月末に「〓月会計」の欄、最後に「明治廿七年総計」の欄あり）、附録目次一丁、附録一〜百六十九頁。奥附一丁。

記述は、朱筆および墨筆の交じり書き。到来反物の記述には、反物の数量計算と思われる数字が朱筆で付けられている。この数字の位置を、反物名の前に統一した。なお、七十五、八十〜八十七には○印も併せ付されている。

明治二十八年 乙未（二八九五年） 花蹊五十六歳

明治二十八年の日記（仮番号、No.4）は残されていない。『跡見開学百年』（昭和五十年）中の「跡見花蹊日記解題」に、この年の日記が見あたらない旨の記述がある。

明治二十九年 丙申（二八九六年） 閏年 花蹊五十七歳

〔明治二十九年当用日記〕（No.5）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『明治／二十九年／当用日記』。明治廿八年十月廿六日印刷、明治廿八年十月廿九日発行。編輯兼発行者、東京市京橋区銀座壱丁目九番地 金原喜一（電話千四百七拾壱番）。印刷者、同神田区南甲賀町八番地 金原巳三郎。印刷所、同牛込区市谷加賀町一丁目十二番地 株式会社秀英舎第一工場（電話十九番）。定価、金三十拾五銭。洋紙洋装。海老茶色総クロス表紙、空押し模様、背金箔押し。縦十八・九cm×横十二・八cm。薄浅黄色見返し。扉一丁、序および凡例一丁、日記本欄一〜三百七十九頁（毎月末に「〓月会計」の欄、最後に「明治廿九年総計」の欄あり）、附録目次一〜二頁、附録一〜百六十六頁、白紙一丁、広告一〜二十頁。奥附一丁。

記述は、墨筆、朱筆また黒ペン、赤ペンの交じり書き。到来反物の記述には、反物の数量計算と思われる○印が朱筆で付けられている。この○印の位置を、反物名の後、数量の前に統

一した。

明治三十年 丁丑（一八九七年） 花蹊五十八歳

〔明治三十年当用日記〕（No.6）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『明治／三十年／当用日記』。明治廿九年十月廿六日印刷、明治廿九年十月廿九日発行。編輯兼発行者、東京市京橋区銀座壹丁目九番地 金原喜一（電話千四百七拾壹番）。印刷者、同神田区南甲賀町八番地 金原巳三郎。印刷所、同牛込区市谷加賀町一丁目十二番地 株式会社秀英舎第一工場（電話十九番）。定価、金三拾五錢。洋紙洋装。濃紺色総クロス表紙、空押し模様、背空押し。縦十八・九cm×横十二・八cm。薄浅黄色見返し。扉一丁、序および凡例一丁、日記本欄一〜三百七十八頁（毎月末に「〜月会計」の欄、最後に「明治三十年総計」の欄あり）、附録目次一〜二頁、附録一〜百六十頁、白紙一丁、広告一〜二十頁。奥附一丁。記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。

明治三十一年 戊戌（一八九八年） 花蹊五十九歳

〔明治三十一年当用日記〕（No.7）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『明治／三十一年／当用日記』。明治三十年十一月四日印刷、明治三十一年十一月七日発行。編輯兼発行者、東京市京橋区銀座壹丁目九番地 金原喜一（電話千四百七拾壹番）。印刷者、同神田区南甲賀町八番地 金原巳三郎。印刷所、同牛込区市谷加賀町一丁目十二番地 株式／会社／秀英舎第一工場（電話十九番）。定価、金三拾五錢。洋紙洋装。海老茶色総クロス表紙、空押し模様、背金箔押し。縦十九cm×横十二・七cm。薄浅黄色見返し。扉一丁、序および凡例一丁、日記本欄一〜三百七十八頁（毎月末に「〜月会計」の欄、最後に「明治三十一年総計」の欄あり）、縦野線欄青一色刷八丁、附録目次一〜二頁、附録一〜百五十五頁、広告一〜三十七頁。奥附一丁。

記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。巻末野線欄に記された観世の稽古日、回数控えは、「（明治三十一年会計）」として、本年末尾に置いた。

明治三十二年 己亥（一八九九年） 花蹊六十歳

〔明治三十二年当用日記〕（No.8）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『明治／卅二年／当用日記』。明治三十一年十月八日印刷、明治三十一

年十月十二日発行、明治三十一年十月二十日再版、明治三十一年十一月二十九日三版。発行者、東京市日本橋区下槇町十一番地 東京図書出版合資会社 代表者 西村寅次郎。印刷者、東京市神田区小川町老番地 多田栄次。印刷所、東京市神田区小川町老番地 愛善社。発行所、東京市日本橋区下槇町十一番地 東京出版合資会社。正価、金五拾銭。洋紙洋装。黒色総クロス表紙、上下部分に帯模様空押し、背空押し。縦十九・一cm×横十三・三cm。鳥の子色見返し。扉および目録一〜二頁、諸表一〜六十八頁、日記本欄二百丁半（毎月末に「月会計」の欄あり）、「備忘録」九丁分、「人名簿」二丁半、奥附一丁、広告（薄緑色紙）一〜二十二頁。

記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。あらかじめ印刷されている干支の誤植、「戌（正しくは戌）」「巳（正しくは己）」「巳（正しくは己）」等は、一々注記を施さず、すべて正しい形に改めた（以下、同）。

挿入紙あり。和紙墨書。縦二十四・二cm×横八・二cm。内容から、四月十五日の後に置いた。

明治三十三年 甲子（一九〇〇年） 花蹊六十一歳

〔明治三十三年当用日記〕（No.9）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『明治／卅三年／当用日記』。明治三十二年十一月十五日印刷、明治三十二年十一月二十日発行。発行者、東京市日本橋区馬喰町四丁目 鈴木武次郎。印刷者、東京市神田区小川町老番地 鷲岳孝治郎。印刷所、東京市神田区小川町老番地 愛善社。発行所、東京市日本橋区馬喰町四丁目廿一番地 文友堂書店。洋紙洋装。藤鼠色総クロス表紙、背金箔押し。縦十九・四cm×横十三・三cm。鳥の子色見返し。扉および目録一丁、諸表一〜六十八頁、日記本欄二百一丁（毎月末に「月会計」の欄あり。二月末に曜日干支の訂正記事一頁有り）、「備忘録」九丁、「人名簿」二丁、奥附一丁。

記述は、墨書。当用日記にあらかじめ印刷されている曜日および干支が、三月一日以降一日先行したものとなっており（本年を通常通り閏年と考へ、二月二十九日の存在を前提としたため）、花蹊は曜日と十二支を訂正している（四月四日〜四月八日、四月二十八日、六月十日、十月十三日、十一月二十日、十二月二十四日〜三十一日は訂正なし。六月三日は曜日の訂正なし。八月二十六日、十月二十六日、十一月七日〜十日、十一月十二日、十一月十九日、十一月二十四日、十一月三十日、十二月十八日、十二月二十二日〜二十三日は十二支の訂正なし）が、その訂正そのものがさらに誤っている場合が時折ある。しかし、それらについては一々注記せず、すべて正しい曜日・干支に改めた。また巻末「備忘録」欄に記された支出控えは「（明治三十三年総計）」として、本年末尾に置いた。

明治三十四年 辛丑（一九〇一年） 花蹊六十二歳

〔明治三十四年当用日記〕（No. 10）に記載された内容を収める。
書誌を記す。背標題、『明治／卅四年／当用日記』。明治三十三年十月廿一日印刷、明治三十三年十月廿五日発行。発行者、東京市日本橋区下槇町十一番地 東京図書出版合資会社 代表者 西村寅次郎。印刷者、東京市神田区猿樂町式丁目式番地 上村竜之助。印刷所、東京市神田区猿樂町式丁目式番地 博信堂。発行所、東京市日本橋区下槇町十一番地 東京図書出版合資会社。洋紙洋装。葡萄茶色総クロス表紙、上下部分に空押し帯模様、背金箔押し。縦十九・四 cm×横十三・一 cm。鳥の子色見返し。扉および目録一丁、諸表一〜六十五頁、「満年算月表」半丁、日記本欄二百丁半（毎月末に「〴月会計」の欄あり）、「備忘録」九丁分、「人名簿」二丁分、奥附半丁。発行書目、十丁。
記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。巻末「備忘録」欄に記された支出控えは「（明治三十四年総計）」として、本年末尾に置いた。

明治三十五年 壬寅（一九〇二年） 花蹊六十三歳

〔明治三十五年当用日記〕（No. 11）に記載された内容を収める。
書誌を記す。背標題、『明治／卅五年／当用日記』。明治三十四年十月六日印刷、明治三十三年十月十日発行。発行者、東京市日本橋区下槇町十一番地 東京図書出版合資会社 代表者 西村寅次郎。印刷者、東京市京橋区木挽町一丁目十四番地 加藤忠治。印刷所、東京市京橋区元数寄屋町四丁目二番地 福岡商店印刷部。発行所、東京市日本橋区下槇町十一番地 東京図書出版合資会社。洋紙洋装。煤竹色クロス表紙、背革装金箔押し。縦十九・五 cm×横十三 cm。鳥の子色見返し。扉および目録一丁、諸表一〜六十四頁、日記本欄二百丁半（毎月末に「〴月会計」の欄あり）、「備忘録」九丁分、「人名簿」二丁分、奥附半丁。発行書目、十丁。
記述は、墨筆また鉛筆・青鉛筆の交じり書き。当用日記にあらかじめ印刷されている干支が、すべて四日まえのものにずれている。花蹊は、六月二十九日〜九月二十四日の干支を訂正している（六月二十九日は十干のみ、七月五日〜八月八日、八月十日〜九月二十四日は十二支のみ訂正）。六月二十九日は、訂正そのものがさらに誤っている。また花蹊は、十月一日、二日の曜日を訂正しているが、これは元来の印刷が正しい。しかし、これらについては一々注記せず、すべて正しい形を起こした。また、巻末「備忘録」欄に記された支出控えは「（明治三十五年総計）」として、本年末尾に置いた。
挿入紙あり。和紙、縦二十四・五 cm×横三十三・三 cmの和紙を祝儀折りにした表右部分に墨書。日記本文の後に収めた。